

FM Master の特徴

- 調べたり入力したりする項目が多いと、途中で断念してしまうようです。FMマスターで最低限必要な項目は、床面積や建設年度など5~6項目、あとは部位部材ごとの数量や金額を自動で計算するので手間要らずです。
- 現地を調べて詳細な結果を入力したい場合にも対応した、データベースの機能も持っています。利用者数などの運営情報や、アンケートの結果なども入力できます。
- クライアントサーバー方式を採用しているため、営繕、企画・財政、所管など、同時に複数の職員がアクセスできます。
- アクセス権限も設定できるため、教育委員会は小学校の情報を更新できても老人福祉センターの情報は見るだけ、といった細かい設定が可能です。
- 管財情報や営繕情報などをデータとして保管されている場合は、データを読み込んで活用することが可能です。
- 部位部材ごとの価格はデフォルト値で設定済みですが、工事情報を入力していくことで、地域の実勢に見合った金額に近づいていきます。
- 工事業者に工事情報を提出させることで、長期にわたって活用していただけます。
- 建物ごとにライフサイクルコスト（LCC）を算出します。教育施設、防災施設、庁舎などの区分ごとにも算出できるほか、まち全体としてのコストも算出できます。
- 算出して終わりではなく、この建物の建て替えを3年遅らせたら費用はどうなるか、といったグラフの山を崩すシミュレーションを行うことができます。
- したがって、長期にわたる修繕計画やまち全体の公共施設再配置計画の策定、次年度予算編成などに役立ちます。
- FMマスターの販売価格は税抜き一律300万円です。ご購入いただければ、皆さんで公共施設の情報管理、コストの算出、シミュレーションを自由に行っていただけます。
- 防災の視点を含めたデータベースにするなど、FMマスターはカスタマイズのご要望にも対応いたします。また、ソフトの提供だけでなく、付随する様々なご要望にも対応いたします。
- 進んでいる自治体でも、データを収集したり、公共施設白書を作成したりして終わっているようです。維持更新にかかる計画を策定されたい場合など、株式会社三菱総合研究所がコンサルティングいたします。